

## 早稲田大学 国際教養学部 日本史 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	正解率が9割になることも十分あり得る、わりと標準的な問題であった。昨年よりは簡単になっている。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代・中世の法典	7・10が難しいが、ほかは標準的な問題であった。	標準
II	中世～近世の琉球	早稲田を受験するなら、当然備えておくべき沖縄史からの出題。正誤問題文の中には、早稲田が好む誤文も登場しており、受験会場で喜んだ人もいるはずである。3はやや難しいが、「灰吹法」は2003年の政治経済学部でも記述形式で出題されているため、知っていた受験生も多かっただろう。9は選択肢を眺めてみれば正解できるはずである。	やや易
III	幕末～明治初期の外交	国際教養学部では定番となりつつある、英文史料を使った問題。ただし今年は、英文を読解する必要はほとんどなかった。各小問の選択肢を丁寧に消去法で解いていけば、10以外は正解できる。1・2ともにめったに出題されない単語だが、早稲田予備校の「石黒の日本史正誤問題演習」のテキストには登場しており、その授業の解説を覚えていた人には大喜びの問題であった。2の選択肢がそれぞれ判別できるかどうかカギ。	やや難
IV	古代～中世の仏教	9以外は拍子抜けするほどの簡単な問題。	標準